

読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子
定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.669

- ★「敬老の日読書のすすめ」掲載図書一覧(2頁)
- ★「読書週間」ポスターイラスト決定!(8頁)



●「敬老の日読書のすすめ」によせて 煩わしき人間関係万歳 『奉還町ラプソディー』によせて

児童文学作家
ノートルダム清心女子大学教授

むらなかりえ
村中李衣

10年前。前任校を辞め岡山

うことになる。

の包み紙で鶴を折って竹籠に

の大学へ移ると決めた矢先に母がクモ膜下に倒れ家の中はてんやわんや。あれこれの心配ごとを山口に残し、友人が手配してくれたアパートめざし、薄暗い奉還町商店街を大きなスーツケースを引きずって歩いた。シャッターはとつと降ろされたあとで人影はほとんどなし。振りかえると、背後の道はもうべつたりと闇にふさがれ逸れる脇道もなし。その瞬間、これはもう泣き言を言わず、この狭い道をまっすぐ前へ前へとひとりで進むしかないんだと覚悟した。感傷の雑巾をギュッと絞り、ここで生きてやると決めた。

次の日から、奉還金を元手に大名たちが始めたという商店街の圧倒的黄昏パワーと戦うことになる。軽いコミュニケーションのつもりで「おっちゃん、残りの鮭全部買うからちよい負けて」と語りかければ返事がなし。理由は明快。「負けてはならぬ」のだ。ちよつとでもおもしろいものを選びたいと野菜に手をふれようとしたら「さわるでない」。迷うことは潔くないらしい。ワゴンに積まれた商品を確かめようとしたら「あんたにやそれらは小さい」。え? 腹巻なのにい? ……

1年365日毎日毎日同じことが繰り返される。暑かろうが寒かろうが雨が降ろうが祭りの日だろうが、奉還町商店街の年寄りたちの日々は振り子のように同じ時の幅を行き来する……と思いきや、ある日突然その振り子の動きが止まる。この衝撃こそが街の若い者たちにとっての得難いラプ

ソディの始まりなのだ。あつてあたりまえの鬱陶しさや融通のきかなさが、ふつと消える。どうしちやつた? じいちゃん倒れたんか? え? 昨日までおれを叱り飛ばしてたのに? え? 店をたたむのなんか聞いてないぞ。まつてよ、これから饅頭どこで買えばいいん? 答えてよ、ねえ。クールでかつこよく、煩わしさのない人間関係の中でだけ大きくなっていくことが、若い人たちにとっていいことなのか、この10年間、奉還町ですったもんだ事件をあれこれ経験しながら考えた。おもしろいことにこの商店街には、最近ベトナムやトルコや台湾の若者たちがじいちゃんばあちゃんたちに並んで商売を始めている。ここにも新しい情の流れと繋がりが生まれつつある。というわけで、本書に書かれたエピソードは、どれもぶつとんでいるように見えてほとんど実話。空想の部分さえもいつかほんとうになるんじゃないかと、こつそり希望を思い描いてみたりしている。



2023 敬老の日読書のすすめ

心ゆたかに生涯読書

「2023 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日（高齢者）にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は40の読進協から、78点の書目の推薦をいただきました。もっとも多くの推薦があったのは、石井哲代、中国新聞社の『102歳、一人暮らし。』で、12の読進協から推薦がありました。ついで、内館牧子の『老害の人』が4つの読進協から、樋口恵子の『老いの玉手箱』と宮本輝の『よき時を思う』が3つの読進協から推薦があり、人気を集めました。

今回は小説の推薦が少なかったですが、100歳を超えた著者の作品や旅行ガイドブック、児童書などバラエティに富んだ作品が選ばれました。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認



今年は赤みの強いオレンジ色です

決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、13万5000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータもあります。リーフレットは多少の準備を用意しております。必要な方は、早めに当事務局までお問い合わせください。

03-52244-5270
03-52244-5271
info@dokusyo.or.jp
http://www.dokusyo.or.jp/

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
石井哲代 中国新聞社	102歳、一人暮らし。	一五四〇円	文藝春秋
樋口 恵子	老いの玉手箱	一五四〇円	中央公論新社
五木 寛之	人生百年時代の歩き方	九三〇円	NHK出版
和田 秀樹	老いの品格	一〇二〇円	PHP研究所
郡山 史郎	87歳ビジネススマン。 いまが一番働き盛り	一五四〇円	青春出版社
前田 速夫	老年の読書	一六五〇円	新潮社
内館 牧子	老害の人	一七六〇円	講談社
宮本 輝	よき時を思う	二二〇〇円	英集社
下重 暁子	個独という生き方	一五四〇円	東京新聞
養老 孟司	ものがわかるということ	一七六〇円	祥伝社
群 ようこ	たりの生活	一四三〇円	朝日新聞出版
村中 李衣(作) 石川えりこ(絵)	奉還町ラプソディ	一七六〇円	BL出版
多賀 幹子	70歳からの品格	一八七〇円	KADOKAWA
カール・ベンクス、リ ン・ステューブ、ベンクス 乗松 祥子(著) 内田忠成子(イラスト)	NHKカールさんとティーナさんの 梅おばあちゃんの贈りもの	一七六〇円	主婦と生活社
稲田 和浩	落語に学ぶ老いのヒント	二四二〇円	誠文堂新光社
山中 潤之	親不孝介護	一〇五六円	平凡社
川内 浩	距離を取るか、うまくいく	一七六〇円	日経BP
江森けさ子	老いも死も自然がいいね	一九八〇円	農山漁村文化協会
夏井いつき	瓢箪から人生	一四八五円	小学館
清水 洋美	牧野富太郎植物語り	一七六〇円	世界文化社
塩澤 幸登	昭和32年、昭和40年篇	三三〇〇円	河出書房新社
地球の歩き方 編集室(編)	JOO地球の歩き方日本 2023/2024	三三〇〇円	Gakken
アンソニー・ハンセン ロビン・スウェット ルネ・ド・小坂恵理(訳)	街角さりげないもの事典	四一八〇円	光文社
御船山英子(著)	運動脳	一六五〇円	サンマーク出版



2023・第77回 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりますよう、お願い申し上げます。

今年の標語は「私のペースでしおりは進む」です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

この数年で、電子図書館サービスや学校教育におけるタブレットの活用が進み、読書環境が大きく変化してきました。その一方で、対面での読み聞かせや読書会の魅力、書店や図書館でリアルに本を選ぶ楽しさも再認識されています。「読書週間」が、紙・電子を問わず、本を通じて人とふれあい、世界が広がるようご機恵となることを願います。

公益社団法人 読書推進運動協

議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げています。

(1) 国民すべてに

読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や図書館で一冊の本を手にとってみる、そんな展示や行事を期待しています。

(2) とくに青少年に

読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなつた」といわれてきました。近年は、受験戦争に加え、映像や電子メディアなどの発達でますます子どもたちの「読書」の時間がせはめられています。しかし、どんなメディアの時代でも、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディア

の基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、文庫、実演グループなど)は約1万2300あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2018年度全国読書グループ調査』より)。グループ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

(4) 家庭文庫、地域文庫、職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。各地域の公共図書館が充実し、読書グループや家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫

を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

2005年(平成17年)7月29日に公布された「文字・活字文化振興法」により、10月27日が「文字・活字文化の日」と制定されています。「読書週間」とともに、「文字・活字文化の日」もおおいに広めていただきたいと思います。

記

名称 2023・第77回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版次協会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書店商業組合連合会)

後援 文部科学省

期間 10月27日(金)から11月9日

(木)まで

標語 〓私のペースで

しおりは進む

〓「全国優良読書グループ表彰(第

56回)」の実施

〓「野間読書推進賞(第53回)」贈呈式開催

〓ポスターおよび広報文書配布(公共図書館、全国の小・中・高等学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など)

〓その他、道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

〓《各種機関へお願いの行事内容》

〓公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書雑誌展示会」「著者をかこむ会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

〓道府県の読書推進運動協議会による道府県単位の「読書大会」などの開催

〓出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

■「子どもの読書推進会議」総会

生成AIと向きあう時代 構成団体の力をあわせて読書推進を

7月14日(金)、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて「子どもの読書推進会議」の2023年度第1回総会が行われた。推進会議を構成する各団体から21名の委員が出席した。この会議体の事務局は、読書推進運動協議会が務めている。

総会の冒頭、野間省伸代表は議長としての挨拶で、「AI時代に必要な資質・能力」について、読書こそが成長期においてもっとも必要なスキルであり、「子どもの読書推進会議」の活動は、今後ますます重要なものとなっていくと

述べた。

議事1として、事務局より2022年度の事業報告があり、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団と共催の「上野の森 親子ブックフェスタ」と、「絵本ワールド」事業を中心に報告、承認された。議事2として、

「2022年度 収支決算書」について、明細も含めた説明があり、監査役より適正な手続きで監査を行い完了した旨の報告があり、こちらも承認された。



中心事業「絵本ワールド」は2023年度も各地で開催予定 (写真は昨年の和歌山会場)

議事3の「2023年度 収支予算書」では、「上野の森 親子ブックフェスタ2023」拠出金、絵本ワールド事業などを中心に、2022年度とほぼ同等の予算を計上していることが報告され、承認された。さらにその他として、2023年5月4日(木)・5日(金)開催の「上野の森 親子ブックフェスタ2023」では来場者数、売上金額ともに前年より増加したことも報告された。

最後に構成各団体より活動報告があり、閉会した。

■「第56回 造本装幀コンクール」入賞作品発表

ブックデザインの力を再認識した 「読書推進運動協議会賞」の選出

一般社団法人日本書籍出版協会・一般社団法人日本印刷産業連合会が主催し、出版物について印刷、製本、装幀、デザインなどの観点から総合的に評価、顕彰する「第56回 造本装幀コンクール」の受賞作品が発表された。審査会

は5月23日(火)に行われ、2022年に初版が刊行された書籍が対象、応募があった199者315点のなかから各賞21作品が選出された。

今回の三賞には、文部科学大臣賞『海の庭』(国書刊行会)、経済産業大臣賞『MARUHIRO BOOK 2010-2020, 2021』(マ

ルヒロ)、東京都知事賞『柴犬二匹でサイクロン』(書肆侃侃房)が選ばれた。

後援団体賞のひとつ「読書推進運動協議会賞」には、芦澤泰偉・装幀、佐藤卓・著の、『マークの本』(紀伊國屋書店)を選出した。

グラフィックデザイナーとして多方面で活躍する佐藤卓が、さまざまなクライアントの依頼により制作した数多くのマーク、ロゴのなかから、120を選んで掲載している。クライアントは多岐にわたる。企業のコーポレートロゴだけでなく、ブランド、施設やイベントなどの多くのマークやロゴがならび、日常見慣れたものも多い。

芦澤泰偉の装幀は人目をひく鮮やかなブルーとホワイトを基調にしたシンプルなもの。本文のレイアウトもひとつの「マーク」につき見開き展開、左ページが説明の文章、右ページがマークそのものとフォーマット化されていて、整然と並んでいる。紙の本に二次元で印刷された120のマークだが、これらを順に眺めていると、その背



今年の三賞 左から東京都知事賞、経済産業大臣賞、文部科学大臣賞



後援団体賞の4作品 右から2番目が読書推進運動協議会賞「マークの本」

景にある企業や組織がこれまで歩んできた歴史や、現在の使命感、かかわっている人々の思いやエネルギーまで、立体的に伝わってくるように感じて評価した。イメージふくらむ本であり、読書推進の観点からも、さまざまなブランドやデザインやブランディングに携わる若い人に読んでほしい1冊だと思う。

他の賞については、コンクールの公式サイトを参照のこと。
(<https://www.jbpa.or.jp/zohon/zohon-winning.html>)
なお、9月22日(金)から10月末の予定で、第56回造本装幀コンクールの受賞作品をはじめ全応募作品315点が、東京都千代田区の出版クラブビル内クラブライブラリーで公開展示される。

「子どもとの絵本のひとときや、その思い出の写真」を、SNSで募集した、NPOブックスタート「第2回 いっしょにえほん写真コンテスト2023」の受賞作品26点が発表されました！

応募総数は297点。選りすぐりの受賞作より、一部をご紹介します。



◀大賞 小林大我さん (神奈川県)

大賞は、イラストレーターの方の山口みれいさんがイラストにしてくれました！



選者賞 (ふわはね賞) ことママさん (愛知県)



選者賞→ (NPOブックスタート賞) ぐりとぐらさん (東京都)



入選 あおあかさん (大阪府)

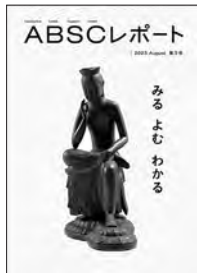
◀入選 _hide_phonさん (滋賀県)

シェアボックスを、シェアしよう。 NPOブックスタート主催 「第2回 いっしょにえほん 写真コンテスト2023」 発表！

- 写真の著作権は、受賞者（撮影者）に帰属します。
- 下記のサイトに、すべての入賞作品が掲載されています。

<https://www.bookstart.or.jp/>

◀第2回 いっしょにえほん写真コンテスト2023▶ 選者 *五十音順
 かさいまりさん (絵本作家・日本児童出版美術家連盟 理事長)
 ふわはねさん (絵本講師・JPIC 読書アドバイザー)
 三輪 丈太郎さん (子どもの本専門店メルヘンハウス店主)
 吉田 明世さん (フリーアナウンサー・絵本専門士・保育士)
 NPOブックスタート 事務局



「ABSCレポート」第3号

報を集約して広く公開すること、

2023年3月、一般社団法人日本書籍出版協会（書協）のブックスタート・ブックス委員会ほか出版関連団体などで構成される「ブックスタート・ブックス・サポートセンター（ABSC）準備会」が、一般社団法人 日本出版インフラセンター（JPO）の一部門「ABSC」として、正式に設立された。

ABSCは障がいの有無にかかわらず、より多くの人が出版物を活用できる社会の実現を目指して、さまざまな取り組みをする

読書バリアフリー環境整備のため出版界ができることを考える

ABSC正式に設立

障がい者・ボランテニアからの書籍テキストデータ提供の要望にこたえる環境作りなどを整備することをはじめ、また、読書困難者の現実について学び考えることも呼びかけていく。

設立にともない、昨年より発行されてきた「ABSC準備会レポート」も、7月20日に発行された第3号より「ABSCレポート」に名称を変更。月刊誌『世界』2022年11月号（石波書店）に掲載された、「座談会 音で読む『世界』—視覚障害者と情報保証」の抜粋をはじめ、障がいの有無にかかわらずだれもが映画を楽しめる「ユニバーサルシアター」の設立者や、触覚を生かした「ユニバーサル・ミュージアム」の企画・実践者などへのインタビューを紹介している。同レポートは、ABSCホームページでTTS、マルチメディアDAISY、点字データに対応した形で順次、公開される。



ABSCレポート QRコード

優良読書グループの歩み (8)

2022年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

読み聞かせボランティア 「おはなしほっとけーき」

代表者 小野寺明子

宮城県気仙沼市

〈推薦〉

宮城県読書推進運動協議会

2001年に開催された図書館読み聞かせボランティア講習会の受講者を中心に、2002年、17名で結成しました。月1回の図書館おはなし会で活動を始め、勉強会や絵本作家の講演などに参加し、経験を積みました。2007年から始まった気仙沼市のブックスタートでは、親子に絵本の楽しさを伝える活動に携わりました。小学校などからも依頼が入り、活動は順調でした。

しかし、2011年3月、東日本大震災で活動拠点である図書館が大規模半壊となり、活動は一時中断しました。その後、狭いながらも図書館内に行事スペースが確保され、少しずつ活動を再開しま

した。2012年に図書館敷地内に、プレハブで子どものための部屋ができ、気兼ねなく読み聞かせができる環境にもどりました。たくさんさんの親子が来てくれて、とてもうれしくて涙が出ました。

2014年から児童館でも月1回、おはなし会をしています。地元ラジオ局(災害FM)から隔月で読み聞かせ番組の依頼もあり、私たちはとても興奮しました。リスナーからうれしいことも届き、励みになりました。番組は2017年7月で終了となりましたが、素晴らしい経験となりました。

その後は保育所・幼稚園・小学校への出前読み聞かせ、講談社全国訪問おはなし隊、民話のつどい、方言サミット(方言で昔話を)、市の子育て応援事業、地域のクリスマス会など、数々の読み聞かせ依頼をいただくようになりました。

2022年には結成20周年を迎え、10月は美術館で開催された

新・方舟祭の舞台出演、11月は図書館で記念のスペシャル読み聞かせ会を開催し、たくさんの方にたいへん喜んでいただきました。地元紙でも、子どもの読書活動を支える団体として大きく取りあげていただきました。絵本に加え、手作り小道具や手遊びも取り入れ、子どもたちが笑顔になつてくれるよう、心豊かなひとときとなるプログラムを心がけて活動しています。

メンバーの入れ替わりもありますが、現在は12名で活動しています。月1回定例会をし、活動報告・ふり返り・活動予定の確認・準備をしています。これからも子どもたちの健やかな成長を願って、私



結成から20年以上、これからは親子の笑顔にかこまれて

たちの活動が心の栄養の一助となるよう、微力ながら継続し、読書活動を支えていきたいです。

子どもの本研究会

代表者 永井 祐子

長野県飯田市

〈推薦〉

長野県読書推進運動協議会

子どもの本研究会は、今年、発足して50周年を迎えました。「子どもによい本を手渡したい」との思いから学校、幼稚園、保育園の先生や、保護者、図書館職員など60名の会員が集まり、1972年7月に椋嶋十氏、丸岡秀子氏、代田昇氏の三方を迎えた講演会で始まりました。

月一度の例会では、絵本や児童書をテーマに、会員が交代で研究発表を行ってきました。科学絵本、乗りもの絵本、中高生向けの本、講演会にお呼びする講師の作品研究など、多彩です。冬には、『宝島』『秘密の花園』のような長編を読んだの読書会、視察研修では近隣の絵本美術館などに出かけます。毎年絵本や童話の作家、翻訳者、編集者などの講演会も行ってきましたが、コロナ禍で2年続いて中



50年、毎月積み重ねてきた例会風景

止を余儀なくされました。1999年には、会員有志により読み聞かせボランティア活動を開始し、地域の図書館や、学校で活動しました。同時に読み聞かせのための勉強会も行いました。現在は研究会からは独立して活動しています。

近年は図書館が選んだ小学校低・中学年向けの本や、清水真砂子著『子どもの本のもつ力』で取りあげられた60冊の本を手付けして会員が毎月数冊ずつ読んできて、紹介しあいました。そこからじっくり1冊の本と向きあいたいと思いついて、昨年は『モモ』、今年『星の王子さま』を学びあいました。子どもの本から時空を

超えて生きるようごこび、他者との関わり、信頼など、大人にも響く感慨を毎回わちあつていきます。

研究発表、講演会、視察研修などの活動記録と会員のつづやきを、『えんどうまめ』という冊子にまとめていました。現在は50周年の記念誌を編集中で、会の設立

当時の会員、元図書館の職員などお世話になった方々に寄稿をお願いし、思い出の写真を集め、来年春の発行を目指しています。

会が発足した50年前に比べ、社会情勢はずいぶん変化しました。子どもがネットに費やす時間の増加が話題になり、子どもの活字離れは深刻です。現在会員は15名高齡化とともに、次代を託す若い会員の減少に苦慮しています。

こうして振りかえってみますと、最近の私たちの活動は「大人が読む子どもの本の会」となっています。読み聞かせだけでなく、大人も子どもとともに絵本や童話を一緒に楽しんでほしい。いま一度子どもによい本を手渡したい」との会発足当初の思いを胸に刻んで、子どもにも大人にもよい本を手渡すような活動を、地域に発信していきたいと思っています。

DANパネ団

代表者 渡辺 繁治
大分県大分市

〈推薦〉
大分県読書推進運動協議会

DANパネ団は、1997年に結成し、25年目を迎えました。私自身パネルシアターが大好きで、講師を招いたり研修会に参加したりして勉強するなか、ケロポンズの増田裕子さんの勧めもあつて、パネルシアター劇団を結成することになりました。

「パネルシアターを普及させた」という思いに共感してくれた友人の紹介による保育園公演を皮切りに口コミで広がり、県内だけでなく、県外からも声をかけていただくようになりました。

その後、2001年に別府大学短期大学の先生方の協力を得てパネルシアター研究会を発足させ、16年間学生の指導にあたりました。また、2003年には、別府大学の留学生の協力を得て韓国を訪れました。以来毎年のようにネパール・スリランカ・タイ・中国などアジア諸国を訪れ、大学や幼児教育の現場で普及活動が続け



パネルシアターを楽しみ、人とつながる喜びが原動力

ています。

DANパネ団は現在、7名のメンバーで活動しており、毎週1回の練習を行っています。各目の仕事を調整して集まるのはたいへんですが、ほとんどのメンバーが毎回参加しています。それは、パネルシアターが好きだからにほかなりませんが、なにより公演が楽しいのです。子どもたちはもちろん、大人たちも童心に帰って笑い、楽しみ、会場が一体化したときは最高です。

私の師匠でもあるパネルシアター創作者の古宇田亮順先生をはじめ、パネルシアターをおして出会う人たちはすてきな人ばかりで、人の輪がどんどん広がって

きました。

そんななか、大分県玖珠町にある日本のアンデルセンと呼ばれる久留島武彦記念館の館長や、野津町に伝わる吉四六話の語り部の方との出会いがありました。みなさんの協力を得て、久留島童話や大分の民話をパネルシアターにする取り組みも始めました。

パネルシアターをおして、子どもたちがおはなしの楽しさを知り、本を読んでみたいと思うことに繋がればと願っています。

そして、これからも私たち自身が楽しみなからパネルシアターの楽しさを伝えていけるよう、研鑽を積んでいきたいと思っています。

2023・第77回 読書週間

私のペースで
しおりは進む

10月27日～11月9日



■絵本図書館ネットワーク

子ども文庫の現状、可能性を探るミーティング

「絵本図書館ネットワーク（事務局：佐賀県武雄市）」は、「第1回文庫で絵本ミーティング」を9月16日(土)に東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催する。

このミーティングでは、子ども文庫関係者からの活動状況や課題を踏まえ議論し、文庫の存在意義の再確認、文庫を起点とした地域の絵本・人とのつながりを目指す。パネルディスカッションには、

文庫活動に携わる渡邊和子さん（所沢市）、神保和子さん（杉並区）、中村健太郎さん（習志野市）と出版社を代表して成瀬雅人さん（日本書籍出版協会 副理事長）が参加、森西さん（日本図書館協会 顧問）がコーディネータを務める。

また、村中李衣さん（児童文学作家）の記念講演「場を育てるものがたり〜本がいてくれる〜」も予定されている。

参加には事前の申し込みが必要（参加費無料）。定員になりしだい、申し込みを締め切る。詳細および申し込み方法は絵本ネットワークホームページ（<https://ehon-ih.net>）を参照。



2023 第77回 読書週間 ポスターイラスト決定!

7月20日(木)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」(出席11名)が開催され、「2023 第77回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は4233点。事務局による第一次選考で31点を

選り、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

■大賞(賞金10万円) 1名
鈴木初奈さん(埼玉県さいたま市)



大賞
(ポスターイラストに採用)
鈴木初奈さん

本年度のポスターイラストは、標語「私のペースでしおりは進

■優秀賞(賞金1万円) 3名
吉田小太郎さん(東京都文京区)
鈴木直子さん(千葉県船橋市)
Nophyさん(兵庫県姫路市)

■入選(記念品) 8名
加藤歩さん(宮城県塩竈市)
井之上童子さん(埼玉県新座市)
月井菜生さん(東京都江東区)

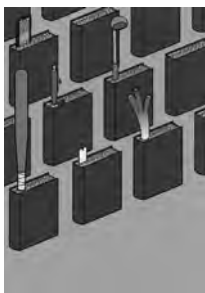
佐藤圭子さん(東京都荒川区)
松本彩希さん(東京都文京区)
石川亜弥さん(新潟県新発田市)
加藤拓郎さん(愛媛県松山市)
小島純子さん(熊本県熊本市)

む」をテーマに募集。マイペース

で歩くしおりや、さまざまなバリエーションのしおりを描いたものが多く寄せられました。また、イソップ寓話『うさぎとかめ』をモチーフにしたイラストも目につきました。

大賞は鈴木初奈さん。本をわたる風が感じられる、さわやかなイラストです。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



吉田小太郎さん



鈴木直子さん



Nophyさん

事務局報告(7月)

☆5日 会員社(総会議事録、会費請求書)を送付

☆6日 「第53回 学校図書館賞表彰式」出席(城西国際大学紀尾井町キャンパス)

☆7日 機関紙「読書推進運動」668号入稿

☆10日 機関紙「読書推進運動」668号責了

☆11日 「読書週間ポスターイラスト」事務局選考

☆13日 「読書週間ポスターイラスト」デザイナー選考会開催

☆14日 機関紙「読書推進運動」668号出来

☆14日 「子どもの読書推進会議」2023年度第1回総会開催

☆18日 「子どもの読書推進会議」2023年度第1回総会「議事録」作成

☆19日 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット、「読書週間」趣旨書入稿

☆20日 「読書週間ポスターイラスト」選定事業委員会開催

☆25日 「2023年度第2回 常務理事会」開催

☆27日 「第77回 読書週間」に関する文部科学省有義の使用許可申請を同省に送付

☆28日 「2023年度 役員改選に係わる役員変更届」を内閣府に提出

☆29日・30日 「日本子どもの本研究会 全国大会」出席

☆31日 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット、「読書週間」趣旨書出来

☆31日 「野間読書推進賞」推薦締め切り

編集部 & 事務局の ひとこと

●静岡市の用宗海岸にある、大人のための子どもの本の資料館「遊本館」の代表 清水喜久栄さんから封筒が届きました。入っていたのは、2018年に亡くなった、翻訳家の清水奈緒子さん(喜久栄さんの娘さん)が手がけた絵本『砂の馬』(セラー出版)。2019年春に、遊本館でうかがった奈緒子さんの思い出話に登場した絵本で、「奈緒子の部屋」の片づけをしたら出てきたので送ります」とお手紙にありました。

●静岡愛にあふれ、私の夫が静岡マラソンを走ったときはわざわざ出迎えてくれ、浅間神社ほか名所案内に加え、なじみのお店に応援するのくれたり、この場所で応援するのなら、バスはこの路線」など、交通案内までしてくれた奈緒子さん。野間読書推進賞贈呈式にもスケジュールが許すかぎり参加してくれて、受賞者の方々と矢つぎ早の高速トクを楽しんでた奈緒子さん。奈緒子さんが訊いたタールの「こちらゆかいな窓ふき会社(評論社)」のおっとりとしたキリンちゃんの口調がお気に入り、と言っていたの、「そう、あの子は絶対、と言っていたのよ」とうれしそうに語ってくれた奈緒子さん。

●今月号の締め切り間際に届いた封筒。本紙583号(2016年6月)に遊本館について大喜びで書いてくれた奈緒子さんが久しぶりで登場したい!と言っているようで、思い出話を連ねてくれました。ちょうどお盆。帰ってきた奈緒子さんは「砂の馬」のように、静岡の街を自由に駆けまわっているらうな。(伸)